

平成30年度年間反省

学校長

1. 学習指導

- ① 専門性を高め、教科指導力を向上させる **B**
- ② 生徒の学習意欲を喚起できる、生きた教科指導をする **B**
- ③ 生徒の進路達成欲求に答えられる、受験指導能力を身につける **B**

運営改革企画室の企画により授業視察研修を実施。私学にあつては魅力ある授業、力をつける授業を展開できることが、生き残りのための必須条件となるので、各個々人の意識を向上させ、魅力ある授業者となるような研鑽が必要となる。

- ④ 学習習慣作りのための具体的展開を実行する **B**

朝学習の定例化、及び講座制の充実により具体的な展開をしている。高校においては三ヵ年を見通した朝学習の在り方を検討するべきであり、日常の生徒の学習活動にたいする意識付けの方法について学校全体として取り組む。

2. 生徒指導 時を守り、場を浄め、礼を正す

- ① 時間の厳守 **A**
- ② 清掃の充実 **B**
- ③ 挨拶の励行 **A**
- ④ 服装指導の徹底 **B**

朝学習が定着し、遅刻等の数は減少している。全体集会においても時間を守る意識が高まった。学校全体の清掃については校務の方々に依頼し、廊下・教室の床等については清掃が行き届くようになってきている。クラブ活動生徒を中心に、しっかりとした挨拶のできる生徒が増えてきた。全校的にも徐々に浸透してきている。服装については全体的にはきちんとしているが、十分行き届かないこともあった。

I 「四つの道しるべ」を基軸とした学校作り **B**

◆「学び知ることの楽しみを味わおう」

① 学習習慣作り

- ・授業の充実（教材研究、授業研修、教科指導力の向上） **B**
- ・学習習慣作りの工夫 **B**
 - D 朝学習・補講・講座制及び各学年ごとの取組 C 中学・高校とも積極的に行っている
 - A 高校新カリキュラムの完成年度を見越した朝学習の組立
- ・自主的、自律的学習の支援 **B**
 - D 講座制の導入及び各教科担当者の取組 C 講座制導入により生徒に自主的な学習姿勢作りを促すことができた A 講座参加への意識付け等、学習に向かう姿勢作り
- ・授業評価・学校評価 **B**
 - D 学校評価については第三者評価、大谷連合による相互評価を行う C 授業評価の具体的な取組はできなかった。A より実践的な評価のあり方を模索し、HPに公表できるようにする。
- ・キャリア教育の充実 **A**
 - D 進路指導部を中心に、学年と連携して積極的に行った C 充実した内容になっている
 - A よりよい内容になるよう創意工夫する。大谷大学との連携をさらに強化すると同時にエナジードの導入により深化を図る。
- ・文武両道の道 **B**
 - D クラブ顧問や学級担任、教科指導者が文武両道の指導を行った C クラブ顧問と

の連携も進み、学習することの大切さを習慣づけることができた A 学校全体のコンセンサスのとり、クラブ顧問と連携しながら意識付けを強化する。

◆「すなおな心で真実を求めよう」 B

- ① 宗教的素養を持った人格の育成
- ② 自立した人格の形成
- ③ 自ら考え、行動できる生徒の育成

D 宗教行事や職員研修、宗教部発行の「要」等により、札幌大谷の教育の願いを周知徹底した C 教員個人により、真宗大谷派の考え方に対する理解がまちまちである A 建学の精神の具現化について明確な指針を提示する。大谷の教育の願いに対するコンセンサスを得るようにする

◆「身体をすこやかに鍛えよう」 B

- ① 生活習慣作り B

D 「あいさつ」と「清掃」指導は充実してきた C 教職員全体での共通理解を喚起する A 札幌大谷としての生活習慣作りについて、教員相互理解を深める

◆「限りなき恵みに感謝しよう」 B

- ① 仏教的情操教育による心の育成 B (前述)

・コミュニケーション力(互いに学びあう仲間として) B

D 学校公開など公の場で生徒たちが自ら発表する場を多く設定した。学級活動や生徒会活動、クラブ活動等で互いにコミュニケーションを取り合う工夫をした。C 平素より他者とコミュニケーションをすることの大切さを指導の必要がある A 教員自らがよいコミュニケーションがとれるように意識して生徒に働きかける。

- ② 個性教育 B

D 各科・コースともその教育の願いのもと、それぞれの分野で努力した。C 授業の質・技術指導の質を向上させる取り組みを徐々に行っている A 授業の質や授業力を向上させるための研修や意識改革が必要である

Ⅱ 「体罰・暴言・いじめ」のない学校作り B

D 「札幌大谷 スクールコンプライアンス」「札幌大谷中学校・高等学校 いじめ防止基本方針」、「札幌大谷中学校・高等学校 問題事案への対応方針」を策定し、4月には教員研修を行った C 際だって大きな問題は出ていない。 A いじめはいつでも起きうるといふ危機感を持ちながら、いじめのない環境作りのために創意工夫しなければならない。教員としてのコンプライアンスは毎年丁寧に行い、意識喚起を行う。

Ⅲ ホスピタリティに満ちた教育実践(生徒・保護者とのコミュニケーション) B

D 教育相談を早い時期に行うことで、保護者とのコミュニケーション作りを行った C 保護者の意見を聞いたり学校の教育の願いを伝えるツールが足りなかった A 学級懇談の実施や、学年便りの充実、担当教員と、生徒・保護者の信頼関係を構築することを意識的にしなければならない。

Ⅳ クラブ活動について A

D 中学・高校とも充実したクラブ活動運営にあたった C 全ての強化指定クラブが全国大会出場を果たした A クラブ活動の願いを再確認し、開かれたクラブ運営となるようにする

Ⅴ 中高大の連携 B

D 幼中高大連携推進委員会を定例化し、総合的な見地から検討した C 大学との連携強化に向けた流れができた A 学園生き残りのための方針策定を積極的にすすめる

Ⅵ 運営改革企画室会議 A

D 学校の進むべき道を皆で考え、協議し推進する場として機能した。特に入試関連について

は全校的な視点に立った協議ができた C 生徒募集や学校作りの根幹となる部分の具体的組立を行う 入試については昨年度実績を大きく上回る実績を上げることができた A 強いリーダーシップを発揮する組織とする

VII 六カ年型の学校作り B

D 校長方針にて提案し、各部署にてその具体的展開にあたった C 六カ年教育に対する理解をより深める必要がある A 中学生徒募集が高校生徒募集の要であることを認識し、共通理解を図りながら六カ年の学校作りを充実させる

VIII 入試に向けて B

D 中学、高校とも少子化による困難性の中、奨学金の組立や全道募集、英数選抜コースの外進生募集、寮の完備等新しい取組をした。中学は100名、高校は定員320名を越える募集ができた C 学校公開に於けるプレゼンの工夫や生徒による説明など、工夫の余地はたくさんある A 知恵を出し合い、いかに多くの生徒に来てもらえるか、運営改革企画室会議中心に組立、実践する

IX 経費節約について B

D 予算案の縮減等の取り組みをした C 学校の財務状況を共有理解し、節電等、学校挙げて意識的に取り組むような意識付けをする必要がある A 経費節約等についての具体的な話し合いをし、共通理解を図る

X 設備の補修・整備について A

D 南校舎解体に伴う施設の増築を行った C 選択教室等の確保をする必要がある A 各部署からの意見を集約しながら、計画を立案する。

XI その他 C

D 一部教員とは話し合いを深めたが、全員の意見は聞けなかった C 計画的に実施する必要がある A 時間を見つけて意見を聞く場を設けていきたい。